



## A地区の調査

A地区は丘陵の先端部にあたり、発掘調査を行う前までは竹原幼稚園が建っていた場所です。地表面から60cm～80cmほど土を取り除くと昔の人々生活の跡（遺構）が見つかりました。以前の竹原中学校建設の際の盛り土や建物の工事などの影響により、遺構の残っていたのは北側の部分のみでした。掘立柱建物<sup>ほったてばしらたもの</sup>2棟、土坑<sup>どこう</sup>54基を確認しました。

掘立柱建物は全体の規模は分かりませんでした。建物64は南北が約9m、建物65は東西が約7.5mでした。どちらも今から600年ほど前の15世紀前後の建物です。

土坑は直径70cm～90cm前後の円形のものや、長径1.5m前後、短径1.2m前後の楕円形をした穴で、深さは20cm～50cmほどでした。底に向かって真っすぐに掘られているものが多く、穴の中からあまり遺物<sup>いぶつ</sup>が出土しませんでした。わずかに出土した土師器<sup>はじき</sup>皿<sup>さら</sup>や鍋<sup>なべ</sup>、陶器<sup>とうき</sup>などは建物と同じ15世紀前後のものでした。このほか、サヌカイト製の石鏃<sup>せきぞく</sup>、釘<sup>くぎ</sup>などの鉄製品、縄文時代後期<sup>じょうもんじだいこうき</sup>の土器も出土しています。

## B地区の調査

B地区は下流の水田の部分で調査を行いました。南側では20cm～30cmの耕作土を取り除くとすぐに遺構が見つかりました。調査区の北側、3分の2ほどは耕作土の下に砂の層があり、旧河道<sup>きゅうかどう</sup>の氾濫<sup>はんらん</sup>により、遺構は無くなってしまったと想定されます。土坑は方形や楕円形をした穴で、大きいものでは長辺約4.4m、短辺約3.2m、深さは10cm前後と浅いです。



### A地区土坑群(西から)

これらの土坑は本来もっと深かったのですが、耕作により、削平<sup>さくへい</sup>されてしまったと考えられます。また、土坑には焼けた土が残っており、鉄滓も出土していることから、野鍛冶<sup>の かじ</sup>に伴う遺構の可能性が考えられます。土坑からは黒色土器<sup>こくしょくどきわん</sup>碗<sup>はじきわん</sup>、土師器<sup>はじき</sup>碗<sup>さら</sup>・皿<sup>がきわん</sup>、瓦器<sup>かきわん</sup>碗<sup>がきわん</sup>、灰釉陶器<sup>かいゆうとうきわん</sup>碗<sup>はくじわん</sup>、白磁<sup>はくじ</sup>碗<sup>やまちゃわん</sup>、山茶<sup>やまちゃ</sup>碗<sup>わん</sup>などが出土しており、12世紀前後の遺構と考えられます。

### B地区土坑群(北から)

## 発掘調査でわかったこと

今回の発掘調査では、A地区で15世紀の掘立柱建物と土坑が見つかりました。土坑の特徴は、美杉町上多気たげいせきぐんの多気遺跡群たげいせきぐんの発掘調査などで、見つかっている掘立柱建物の周囲を取り囲むような場所にあり、遺物をほとんど含まない状況とよく似ています。多気遺跡群の報告では工房に関連する「ゴミ穴」のようなものと考えられています。A地区の調査でも鉄滓てつさいが多く出土しており、B地区同様、野鍛冶が行われていた可能性が考えられます。

B地区では、瓦器椀、土師器椀、灰釉陶器椀、白磁椀、山茶椀が出土しています。一般的に瓦器椀は伊賀地域で多く出土しており、伊勢地域では灰釉陶器椀、山茶椀が多く出土しています。今回の調査ではその両方が出土しており、伊賀と伊勢の両地域へ通ずるこの地域の特徴がよく現れています。



A地区土坑 34 遺物出土状況



A地区表土除去状況



B地区土坑 93



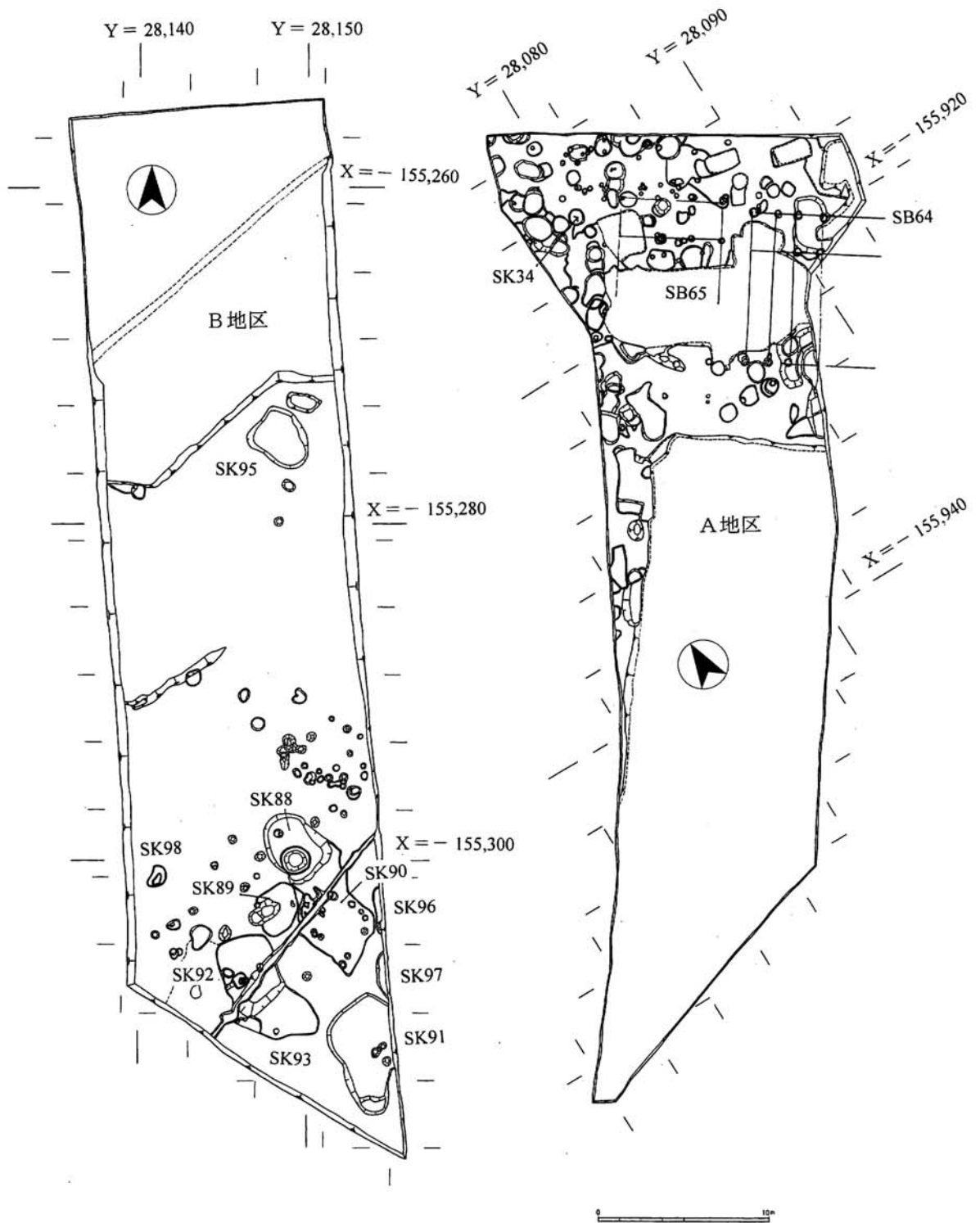
B地区土坑 90 遺物出土状況



瀬木遺跡全景



出土遺物



遺構平面図 (1 : 300)